

令和 2（2020）年度 学域学類からの案内

人間社会学域

- 履修にかかる案内などは、アカンサスポータルや掲示板等でお知らせしますので、こまめに確認してください。

学域GS科目〔専門教育科目〕 人間社会学域の「学域GS科目」は、どの学類でも卒業要件として2単位必修となっており、1年次後期（Q3・Q4）から開講します。1年次後期配当の科目は、次の11科目（大学・学問論、ジェンダーと教育、異文化理解1、異文化理解2、文学概論1、文学概論2、世界遺産学、法政基礎論A、法政基礎論B、イメージの比較文化学、防災学入門）【選必】となっており、2年次からは本格的に各学類の専門教育科目の履修が始まるため、1年次からの履修を推奨します。

また、「異文化理解1」及び「異文化理解2」は「学域GS科目」と国際学類の「専門基礎科目（学類共通科目）」との間で合同開講しており、当該科目を1年次に「学域GS科目」として履修し、2年次に国際学類へ移行した場合、以下の枠内の記載のとおり、科目の読替えが行われます。科目の読替えが行われた場合、当該科目の科目区分が変更され、他の「学域GS科目」の履修が必要となる場合がありますので、その点に注意して履修計画を立ててください。

国際学類移行時に読替えが行われる「学域GS科目」

異文化理解1、異文化理解2

国際学類に移行した場合、科目区分「学域GS科目」ではなく、科目区分「専門基礎科目（学類共通科目）」の「異文化理解1」及び「異文化理解2」に読み替えます。

総合教育部文系学生は、学域GS科目の時間割番号「異文化理解1（時間割番号10019）」「異文化理解2（時間割番号10020）」で履修登録してください。

地域創造学類以外への移行時に読替えが行われる「学域GS科目」

地域創造学Ⅰ、地域創造学Ⅱ

移行前に地域創造学類の専門教育科目「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」を修得し、他学類へ移行した場合は、「学域GS科目」として読み替えます。

学域GS言語科目〔専門教育科目〕 人間社会学域の「学域GS言語科目」は原則2年次からの開講となりますが、外部検定試験を利用した単位認定や英語による海外研修を利用した単位認定は1年次から手続をすることができます。

公認心理師養成プログラムについて 心の健康問題に対し、他の関係者とも連携しながら心理に関する支援を行う国家資格である「公認心理師」の養成プログラムを履修することが出来ます。詳しくはそれぞれの学類のハンドブックを参照してください。

人文学類

プログラムへの配属時の選考方法 人文学類では2年次から各プログラムに所属して、プログラム内で提示される「標準的履修モデル」を参考にしながら自分の関心に合わせて専門科目を学ぶこととなります。それぞれのプログラムには、専門教育を円滑に行うために設定された受入可能人数（適正上限数）があり、配属決定を行う際、志望者がその上限を超えた場合には第1学年第4クォーターまでに履修した科目のGPA値を用いて選考を行います。なお、休学等のために学類への移行が入学後2年目以降になった場合でも、プログラム配属は入学年度を基準に決定します。その他のプログラム配属のルールの詳細は、毎年行う説明会で説明するので、人文学類への移行を考えている場合は必ず出席してください。

履修が望ましい科目等 人文学類では、卒業要件に初習言語科目の単位（1言語8単位以上）が含まれているため、人文学類を志望する人は、1年次から初習言語科目を履修しておくことを強く勧めます。

- 人文学序説A・B・C・D【必】
- 博物館概論【選】（学芸員資格取得を希望する場合）

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

法学類

履修が望ましい科目等 法学概論【選必】、政治学A・B【選必】、民法法入門A・B【選必】、憲法（人権）A・B【選必】

1年次履修可能な専門教育科目 法律実務【選】、基礎演習【選】

経済学類

履修が望ましい科目等 1年次配当専門教育科目履修は必須ではありませんが、経済学や経営学の入門的科目なので、経済学類への移行の判断や2年次以降の履修計画立案の参考になるはずで、その意味でこれらの科目の履修は望ましいと考えます。

1年次履修可能な専門教育科目 経済学入門【選】、経営学入門【選】

【注】1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先：
国際基幹教育院 Web サイト＞新入生・在学生の方へ＞
総合教育部＞学域・学類の情報
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/>

●…専門教育科目

【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています。【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択
共通教育科目の卒業要件は、「共通教育科目履修案内」を参照してください。

学校教育学類

学校教育学類は、教員規模で日本全国最少でありながら、全国トップレベルの採用率・就職率を誇っています。そして、各教員が専門にかかわらず、教員養成に関心を持ち、実習の指導等も熱心に行っていることが、その実績を支えています。

各専修配属時の留意点 2年次から各専修に所属し学ぶこととなります。音楽教育専修は、配属決定前にスクリーニングテストが義務づけられていますので、早めの準備が必要です。例年7～8月頃に学校教育学類学生向けに同テストに関する掲示をしていますので、見落とさないように注意してください。その他の専修は、概ね希望どおりに配属されます。

履修が望ましい科目等 学校教育学類では、小学校一種免許及び中学校一種免許あるいは特別支援学校一種免許の二枚免許取得を卒業要件としている関係で、1年次で、小学校の教科に関する専門的事項に含まれる科目を前期1科目（2単位）、後期4科目（8単位）配当しています。学校教育学類に入ることを検討している学生は「学校教育学類ハンドブック」を参照してください。

1年次履修可能な専門教育科目 ㊦教師論【必】、国語基礎【選必】、社会科基礎【選必】、算数科基礎【選必】、理科専門研究【選必】、家政教育専門研究【選必】

地域創造学類

履修が望ましい科目等 「㊦地域創造学Ⅰ～Ⅳ」【必】を推奨します。学類入学生対象に1年次に設定している必修科目は「㊦地域創造学Ⅰ～Ⅳ」のみです。なお、地域創造学類は総合教育部（文系）学生の移行学類が決定次第、1年次の3月に、GPA値を用いてコース分属の手続きを行います。コース分属に関わるガイダンスについては掲示などで通知しますので、地域創造学類への移行を考えている人は注意をしてください。

1年次履修可能な専門教育科目 ㊦地域創造学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ【必】

国際学類

コース分属時の選考方法 国際学類では2年次からコースに分属して専門科目を中心に学ぶこととなります。それぞれのコースには、専門教育を円滑に行うために設定された受け入れ可能数があり、分属決定を行う際、志望者がその上限を超えた場合には第1学年第4クォーターまでに履修した科目のGPA値を用いて選考を行います。

履修が望ましい科目等 ㊦国際学入門【選必】、㊦国際学入門E【選必】、㊦日本文化【選必】、㊦日本文化E【選必】、㊦異文化理解1（10019）【選必】、㊦異文化理解2（10020）【選必】の履修を推奨します。また、外国語検定試験を積極的に受験することを強く推奨します。特に米英コース配属希望者は、コース分属志望届提出時にTOEFL-iBT、TOEFL-ITP又はIELTSのスコアを提出する必要があり、カリキュラム上、TOEFL-ITP 460点以上レベルの英語力が求められます。さらに、卒業要件に初習言語科目の単位が含まれているため、1年次から初習言語科目を履修することを強く勧めます。

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

[注] 1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先：
国際基幹教育院 Web サイト>新入生・在学生の方へ>
総合教育部>学域・学類の情報
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/>

㊦…専門教育科目

【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています。【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択
共通教育科目の卒業要件は、「共通教育科目履修案内」を参照してください。